

# 図書館だよ！



平成29年9月8日（金）図書部&図書委員会

[担当: 2A 柳田倭征、小松将希 2E 小川翔、渡辺結人、1A 藤原達生、1B 尾坂陽月]

## 最近のトピックから

- ♥ 書道部外部講師の成田先生から図書館に、古くて素敵なブックシェルフを寄贈していただきました。入って突き当りに鎮座しています。一度足をお運びください。
- ♥ 天王南中学校学校祭への古本の寄贈ご協力ありがとうございました。小さいですが、段ボール1箱分をお届けしました。
- ♥ 最近、図書館で熱心に勉強する姿が見られるようになりました。みなさんも、是非図書館に足を運んでください。

## 私のオススメ<2>

<p>「ハンガーゲーム」 [スーザン・コリンズ著 KADOKAWA] 文明崩壊後の北アメリカを舞台に16歳の少女カットにス・エヴァディーンの視点で書かれています。ハンガーゲームとはくじ引きで選出された24人のうち最後の一人になるまで殺し合いを強制されるイベントです。 (1C 大塚 海優)</p>	<p>「イヤな仕事は絶対するな！」 [倉林秀光著 サンマーク出版] この本は将来仕事につきたいと思っている人が読むといい本だと思います。この本を読んでもいい仕事見つけることができれば夢が膨らんで未来はもっともっと楽しくなるんだろうと感じました。 (1A 菅原 大空)</p>
<p>「高校入試」 [湊かなえ著 角川文庫] 橘第一高校、そこは県有数の進学校。入試前日、「入試をぶっつぶす！」と書かれた紙が見つかったから入試に関わる事件が次々と起こる。入試に関わる全員が容疑者の中、犯人はいったいだれなのか？ (1A 佐々木 朋美)</p>	<p>「西野の魔女が死んだ」 [梨木香歩著 新潮文庫] 学校に足が向かなくなってしまったまいは、ひと月あまりも大好きなおばあちゃんのもとで過ごす間、西の魔女から魔女修行を受ける。まいの修行を通して、私たちに大切なものを教えてくれる素敵な一冊。 (1A 近藤 和桂)</p>
<p>「星新一のショートショート」 [星新一著 新潮社] 「星新一のショートショート」シリーズは、長年、幅広い年代の方から人気のある作品です。近未来を思わせる不思議なSF短編集となっています。読みやすい文ですから、ぜひ気軽に独特な世界観に浸ってみてください。 (1A 幸坂 沙妃)</p>	<p>「THE MANZAI」 [あさのあつこ著 ポプラ社] この本は中学校時代の友情関係や夢に向かう姿についての物語です。ここでは漫才の世界が舞台となっています。私はこの本の主人公が友情関係に悩んでいる場面にとっても共感しました。また感動もあるのでお勧めです。 (1A 近藤 優香)</p>

<p>「手紙」          [東野圭吾著 文春文庫]          このお話は、弟の大学進学のために、資産家のおばあさんの家から兄が金を盗んでしまい、それからの生活を描いた物語となっています。家族の絆を真正面から描いた、とても感動する物語です。読んでみてください。          (1 A 星野 司苑)</p>	<p>「ナミヤ雑貨店の奇蹟」          [東野圭吾著 角川書店]          この本は、何個かの短い小説が一冊にまとまった小説です。一つ一つの物語だけでも十分面白いのですが、それらの物語が最後につながるころがこの小説の一番面白いところです。読み終わると気持ちよくなる本です。          (1 A 加賀谷 昂)</p>
<p>「僕と死神の黒い糸」          [天野頌子著 講談社タイガ]          この本は、大富豪の家に生まれ、立場上、命を狙われる主人公、海道凜と、不死身のボディガード永瀬が、家の秘密を暴いていく話です。この話ならではのハラハラ感や、驚きの真実があったりと、とても面白いです。          (1 A 秋穂 鈴花)</p>	<p>「夏と花火と私の死体」          [乙一著 集英社文庫]          作者は乙一という有名なミステリー作者です。更にこの本は作者が私とほぼ同い年の16歳の時に考えた話です。語り手が死んでいるという面白い設定の上、子供が死体をどう処理するかを考えるハラハラするお話です。          (1 A 味戸 瑛里)</p>
<p>「特別法第001条DUST」          [山田悠介著 幻冬舎文庫]          「ダスト」という衝撃的なタイトルが人々を引き付けるこの本は、一般に「ニート」と呼ばれる人々を無人島に放棄するという政策が取られる日本で、主人公達があきらめずに無人島で困難を乗り越える姿には感動できます。          (1 A 伊勢谷 崇仁)</p>	<p>「甲子園がくれた命」          [中村計著 講談社]          春の甲子園で活躍し、日大三高を準優勝に導いた山崎福也選手の脳腫瘍という病気との闘いが書かれています。大好きな野球を励みに頑張る福也選手の姿は、心に響くと思います。本当の幸せについて教えてくれる本です。          (1 A 石原 萌々花)</p>
<p>「ミッキーマウスの憂鬱」          [松岡圭祐著 新潮文庫]          東京ディズニーランドで働くことになった主人公は、想像と現実の差に混乱しながらも、さまざまな出来事を通じて裏方の意義や誇りに目覚めていきます。楽しく、爽快感のある小説だと思います。ぜひ読んでみてください。          (1 A 石垣 俊樹)</p>	<p>「努力が結果につながらない人に気づいてほしいこと」          [加藤三彦著 新潮文庫]          この本で、自分の意識が大きく変わりました。「一ミリでもいい、昨日よりも進歩したい」というのが印象的でした。自分も1日で何か成長したいと思いました。この本は勉強や部活で困っている人におすすめです。          (1 A 八柳 航人)</p>
<p>「ハリー・ポッターと賢者の石」          [J. K. ローリング著 静山社]          この本はハリー・ポッターシリーズの第一作目の本です。ハリー・ポッターとその仲間のロン、ハーマイオニーの3人が賢者の石を手に入れるために大冒険をするお話です。とても面白いのでぜひ読んでみてください。          (1 A 三浦 祐樹)</p>	<p>「人間失格」          [太宰治著 集英社文庫]          おそらく太宰治は自分の死を見つめるためにこの本を書いたと思う。太宰はこの本を書いた一ヵ月後に自殺している。どのように太宰は死を見つめたか、太宰の表現の豊かさに注目するとおもしろい。          (1 A 菊地 亮太)</p>
<p>「君の臍臓をたべたい」          [住野よる著 双葉社]          この本は臍臓に病を抱えたとても元気な女の子と、地味な男の子の話です。2人の話は男の子がたまたま病院で書いた「共病文庫」を読むところから始まります。一見グロテスクなタイトルですが、純愛ラブコメディなので、とても面白いです。          (1 A 横山 莉子)</p>	<p>「ヒトラーのはじめたゲーム」          [アンドレアウオーレン著 あすなる書]          この本は、第二次世界大戦時にヒトラーのナチス党が行ったユダヤ人迫害について書いた本です。収容所の描写がリアルで、生きる希望をもらえたり、家族や仲間の大切さを再確認できる本です。          (1 A 綿引 晴菜)</p>